

いしかわの遺跡

インターネット ホームページ

ようこそ！石川県埋蔵文化財センターへ - Microsoft Internet Explorer

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 移動(M) お気に入り(I) ヘルプ(H)

戻る 進む 中止 更新 ホーム 検索 お気に入り 履歴 チャンネル 全画面表示 メール フォーム

アドレス http://www.ishikawa-maibun.or.jp/

いしかわの遺跡

OPEN!

What's New!

- まいふん最新情報 **NEW**
- 遺跡発掘ファイル
- 発掘現場紹介
- いしかわの遺跡散歩
- れざし体験教室
- れざし体験のQ&A
- 石川県埋蔵文化財センター **NEW**
- 埋蔵文化財センター展示室
- メール
- リンク

〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1
 TEL 076-229-4477 (FAX) 076-229-3731
 E-mail mail@ishikawa-maibun.or.jp

本ホームページで使用しているコンテンツの無断転載はできません。

URL http://www.ishikawa-maibun.or.jp/

4月からインターネットホームページ「いしかわの遺跡」がスタートしました。

ホームページでは、印刷版「いしかわの遺跡」の内容はもちろんのこと、インターネットの利点を生かし、県内の埋蔵文化財に関する最新情報を満載しています。古代技術の体験学習ガイドやセンター展示室の紹介など、ホームページでしか見られないオリジナルな情報もセールスポイントです。

インターネット発信は情報の速報・更新性と内容の豊かさが命。ホームページが名実ともに「いしかわの遺跡」情報センターとなるよう、大切に育てていきたいと思っておりますので、末永く御愛顧ください。

財団法人 **石川県埋蔵文化財センター**
 Ishikawa Archaeological Foundation

〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地 1
 TEL 076-229-4477 FAX 076-229-3731
 E-mail mail@ishikawa-maibun.or.jp

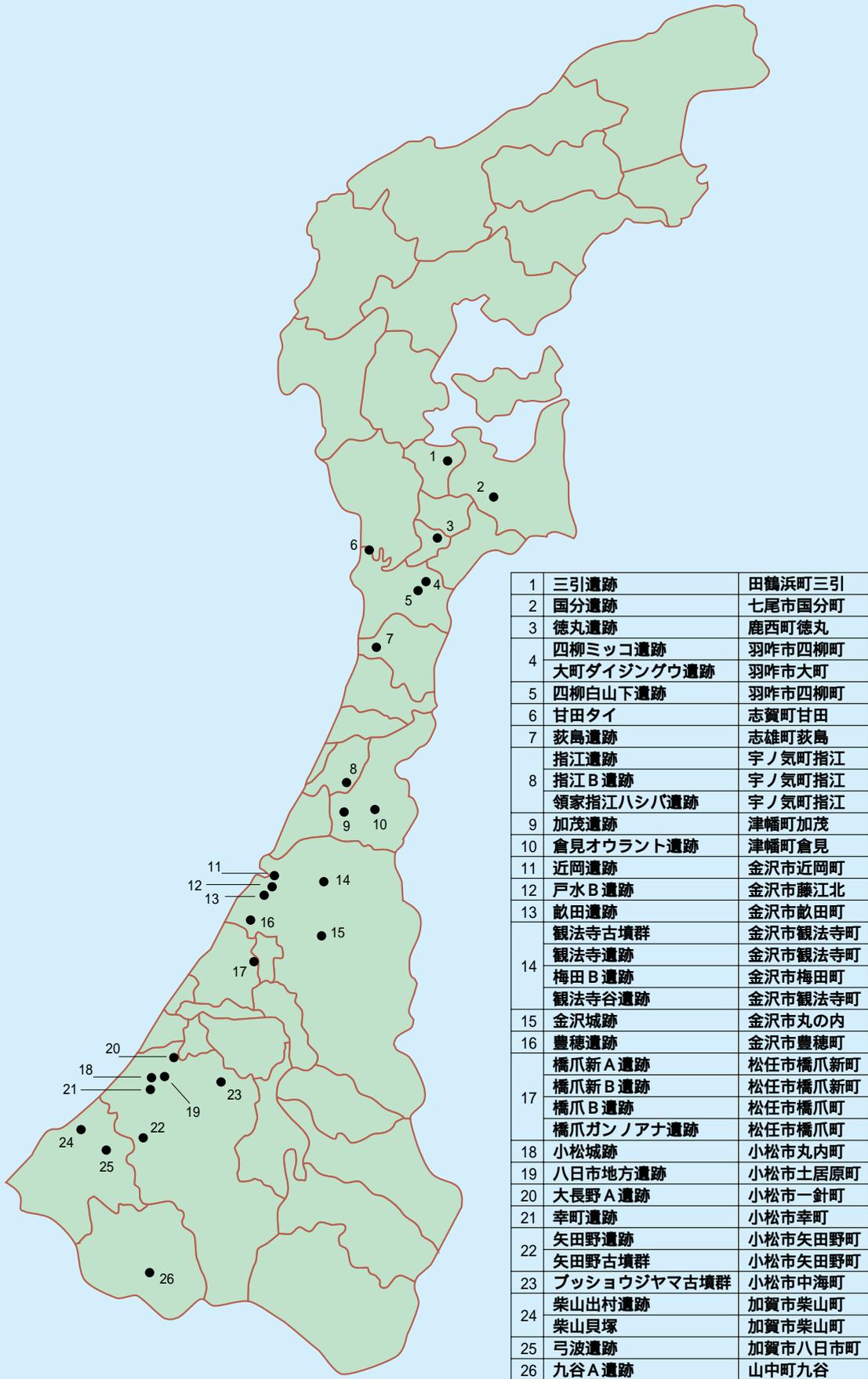
平成11年度展示と催し物のご案内

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
展	口	常	—	展		展
		ピ				展示内容更新
示				7月25日(日)~8月31日(火) 第1回いしかわの発掘展「動物と祈り」		
				8月1日(日) 講演会「動物と祈り - 絵と造形品から古代人の心を探る - 」 講師 春成秀爾(国立歴史民俗博物館考古研究部教授) 場所 石川県社会福祉会館4階大ホール		
考古学講座		5月29日(土) 「加賀能登と日本海交流」 橋本 澄夫	6月12日(土) 「辰口東部の縄文遺跡と北陸の縄文時代」 西野 秀和	7月10日(土) 「考古学入門 - モノの古さ新しさ - 」 栃木 英道		9月11日(土) 「土器の見方 - 弥生時代の生産と交流 - 」 安 英樹
	体験・イベント				7月31日(土) 親と子の遺跡発掘体験教室 (加賀地区)	8月7日(土) 親と子の遺跡発掘体験教室 (金沢地区)
出前考古学講座		学校・公民館等に講師を派遣し、体験学習の指導や講演・展示などを行います 詳しくは、企画部・企画課まで、お問い合わせください				

10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
	常		設		展
		展示内容更新			
					
10月31日(日) 「科学の目で 古代を見る」 中山 由美	11月13日(土) 話題の遺跡講座 県社会教育 センター(予定)	12月5日(日) 「金沢城跡と 城下町遺跡」 滝川 重徳			3月18日(土) 「貝塚から縄文人 の暮らしを考える - 田鶴浜町三引 遺跡の発掘 -」 金山 哲哉
					3月11日(土) 発掘速報会 県社会教育 センター(予定)
10月9日(土) 親子縄文土器 づくり体験					
10月23日(土) 古代体験まつり					
					

日程及び内容などは変更になる場合があります
 日程に 印のついたものは埋蔵文化財センターが会場です

平成11年度 発掘調査遺跡



戸水B遺跡～空中写真測量～

発掘調査成果の全体像を図に残すという作業が行われていることをご存じですか？

道脇の発掘現場でふと足を止めてのぞいてみたり、現地説明会などに行ったことがある方は多いと思います。けれども、その発掘現場の全体図がどのように作成されているかまでを知る機会はなかなかないでしょう。そこで今回は、金沢市戸水^{とみず}B遺跡で行われた、全体図作成のための撮影・測量風景をのぞいてみましょう。



平成11年度調査区 調査風景

空中写真測量って？

ラジコンヘリコプターなどを使って撮った空中写真から、写ったものの位置や形、大きさなどを測定・判読する技術のことです。この技術を用いて、遺跡でみつかった建物跡などを図化して、遺構図を編纂しています。調査面積が狭い場合は、ラジコンヘリコプターで十分ですが、2,000㎡を越えるような広い現場ではラジコンではなく、実際にヘリコプターを飛ばしての撮影となります。

撮影前にまずは…

写真写りがよくなるように調査区を掃除

→

準備が整ったところで、調査員・測量会社・ラジコンヘリコプターの操縦士とで最終打ち合わせ

→

いよいよ 空中写真撮影開始

操縦しながら、遺跡の写真撮影

→

完成！

撮影終了後は…

撮った写真を図化していくために補足測量をします

調査員が図に手直しを加えた後、調査区全体を図化した原図や製本と撮った写真などがセットで納品され完了！

Profile



- 発掘調査を担当した埋蔵文化財センター三健者？からのコメント
- 中央 岩瀬調査員
古代人が天体を見て何を感じたか知りたいです。
 - 左 浅野調査員
小学生の頃から考古学に関心をもちました…それって、何十年前だっけ？
 - 右 加藤(裕)調査員
恥ずかしいから早く撮って！

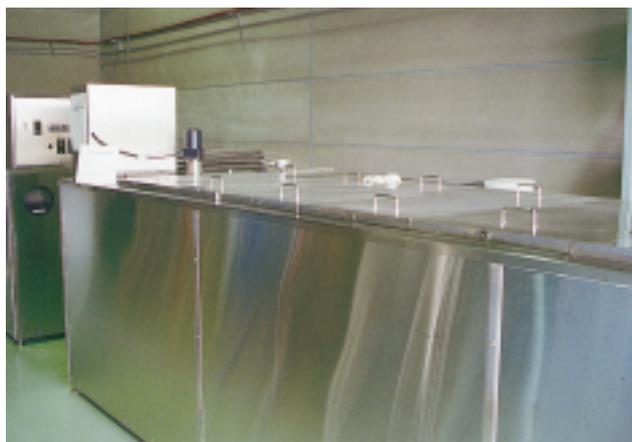
保存処理室その2 木製品保存処理室

今回は前回「いしかわの遺跡No.1」で紹介した**金属製品保存処理室**に続いて**木製品保存処理室**を紹介します。

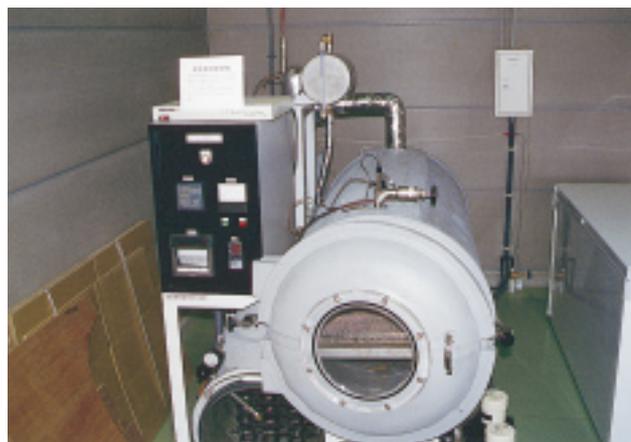
遺跡から出土した木製品は水に漬かった状態で発見されます。それらの木製品は現在の木に比べると、色が茶色く変化しています。しかし、一見すると色以外は昔の形を保っているに見えます。ところが、触ってみると柔らかく、中にはスポンジのように指で押すと簡単につぶれてしまう物もあります。これは長い間湿った土の中に埋まっている間に木の細胞が壊れて、まわりの水の中に流れ出して弱くなってしまったからです。そうやってスポンジようになった木製品は、流れ出た木の成分のかわりに浸み込んできた、たくさんの水のおかげで辛うじてその形を保っています。

このような木製品は自然に乾燥させると、形を保っていた水分が失われてしまい小さく縮んで壊れてしまいます。それで乾燥させないように水に浸けたまま保管しておくのですが、そのままでは途中で腐ったり、展示することも出来ません。そのため木製品には、形が壊れないように水を取り除いた後、弱くなった内部に薬品を入れて強くすることが必要になります。そのような作業のことを「保存処理」といいます。木製品保存処理室では遺物の状態や種類に合わせて、様々な方法とたくさんの機械を使って木製品を処理することが仕事です。病院のような金属製品保存処理室と違って、この部屋ではゴム長靴と前掛け、手袋をした魚屋さんのような姿の職員が時には20kgの薬品袋を持ち上げ、時には深い水槽に自分も浸かりながら、1年以上の時間をかけて木製品を処理しています。

こうして保存処理が終わった木製品は、ようやく展示などで、皆さんに見ていただけるようになるのです。



処理の主力 PEG 含浸装置（長さ 4 m の大きなタンク）



真空凍結乾燥機 漆器などはこの機械で処理します



木製品を 1 点ずつ梱包します（1 回に 500 点以上）



タンクにいれて薬品に浸します（1 年以上）



第1回 いしかわの発掘展 「動物と祈り」

新たに発見された遺跡や出土品、考古学の最新の研究成果を通して、地域の歴史と文化を考える企画展「いしかわの発掘展（第1回）」と講演会「動物と祈り～絵と造形品から古代人の心を探る～」を開催します。

県内では最古かつ最大級の貝塚（田鶴浜町三引遺跡：縄文時代前期初頭）出土の獣骨や、全国初の把付磨製石剣の発見で注目される小松市八日市地方遺跡（弥生時代中期）出土の鳥形木製品など、動物関連考古資料を通して、“いしかわの人々の暮らし”とそれを支えた“心の世界”に迫ります。

企画展 「動物と祈り」 （第1回 いしかわの発掘展）

期間 / 平成11年7月25日（日）～8月31日（火）

開館時間 9：00～17：00

（入館は16：30まで）

会場 / 石川県埋蔵文化財センター（入館無料）

講演会 「動物と祈り～絵と造形品から 古代人の心を探る～」

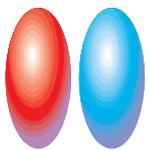
講師 / 国立歴史民俗博物館教授 春成 秀爾

日時 / 平成11年8月1日（日）

13：30～15：30

会場 / 石川県社会福祉会館 大ホール（入館無料）

主催 / 石川県教育委員会・（財）石川県埋蔵文化財センター



訪ねてみよう加賀・能登の遺跡

国指定史跡 加賀市法皇山横穴群

ほうおうざんおうけつぐん

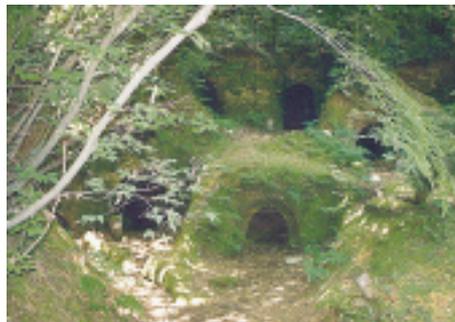
法皇山はかつて花山法皇の宝物を埋蔵したという伝説からその名の付いた、標高30m程の凝灰岩でできた山です。大正11年、県の史跡名勝調査を委託されていた上田三平により発掘調査が行われ、この時はじめて横穴という古代の墓であることが確認されました。昭和4年には国の史跡に指定されています。その後、史跡公園整備のため昭和42・43年に発掘調査が行われ、この時までには77基の横穴が確認されています。全山の分布調査は行われていませんが実数は150から200基に達すると推定され、北陸地方最大級の横穴群として知られています。

出土品には須恵器を中心として直刀、鉄鏃、金環、銀環などがあり、これらの年代から6世紀後半から7世紀末にかけてのおよそ150年間にわたって造られた横穴群であったと考えられています。出土品のほとんどは現地横の収蔵庫に保管・展示されており、4月1日から11月30日まで無料で開放されています。

現在は史跡公園として整備され、横穴内部を実際に観察することができますが、真っ暗なため懐中電灯は必需品です。また、内部は涼しく夏の避暑には最適であり、コウモリや10年以上前から生息しているヒキガエル（どの横穴にいるかは実際に探してみてください）など思わぬ生き物たちと触れあうこともできます。

交通：JR加賀温泉駅、粟津温泉駅からバス、勅使下車徒歩10分。

お問い合わせ：加賀市教育委員会文化財保護室 電話0761-72-1111



ホームページ「いしかわの遺跡」は内容豊富



発掘最前線はイベントや現在発掘中の遺跡情報が盛りだくさんです。

遺跡発掘ファイルはこれまで県内で発掘調査された遺跡の情報が一目でわかります。



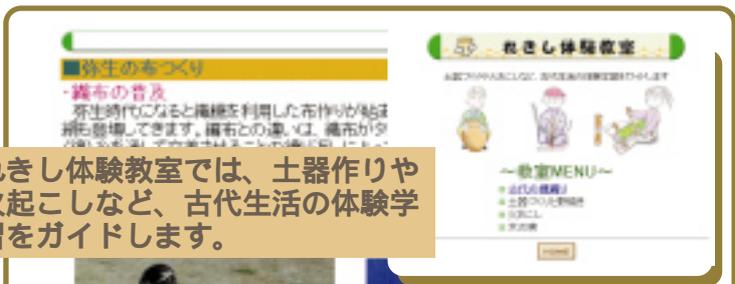
埋文センターのページでは、センターの仕事や中の様子を見ることができます。またセンターが刊行した図書をダウンロードすることもできます。



発掘現場紹介では普段知られることの少ない、発掘現場の雰囲気伝えます。



いしかわの遺跡散歩では遺跡や資料館などの見学を案内します。



れきし体験教室では、土器作りや火起こしなど、古代生活の体験学習をガイドします。



埋文センターの展示室をご案内します。



体験学習のFAQです。

